新型コロナウイルスの終息で日本復活へ

新型コロナウイルスの世界的拡散は、日本でも感染拡大を続け
遂に緊急事態宣言が出されかつて無い経済混乱で、
生活の不安を抱えながら耐え忍ぶ日々が何時まで続くのか？
不安な気持ちが大きく成る事は私たちも実感しております。

しかも早々に終息をさせ、延期された東京オリンピック2020を
2021年に開催させなければ経済回復は望めません。

それには、日本は、特に東京は安心且つ安全だ！
以前より更に良くなった！世界から認められ、
行きたい都市に変わっている必要があります。

具体的には新型コロナウイルスの合理的手順と開示で終息宣言に至る。
他の感染症への予防対策を含めた、そこまでやるの？
感染症予防対策のジャパン規格が必要でしょう。

過去のWHO（世界保健機関）緊急事態宣言

- 2009年4月　豚インフルエンザA(H1N1)(新型インフルエンザ)
- 2014年5月　野生型ポリオウイルスの国際的な拡大
- 2014年8月　エボラ出血熱の西アフリカでの感染拡大

┐├ 年2回

- 2016年2月　ジカウイルス感染症の国際的拡大
- 2019年7月　コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱の発生状況
- 2020年1月　新型コロナウイルスの感染拡大

このように感染症拡散が続く事は珍しくありません。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09241.html　（出典元：厚生労働省）

しかし延期された東京オリンピック2020の開催される時期はヒトスジシマカの活動期で、リオ・オリンピック前の『ジカウイルス感染症の国際的拡大』の緊急事態宣言が思い出されます。

古今東西
『泣きっ面に蜂』や『一難去ってまた一難』等、災難が続く、ことわざが残っていますので、感染症つながりで思い出す訪日外国人も多いのではないでしょうか？
東京オリンピックを成功させるには訪日外国人に不安を抱かせない対策が必要。

意識の変化＝起らないだろう？～起るかもしれない！意識の予防対策が必要。
それが安心安全の信頼を得る予防対策だと世界が認めるのではないでしょうか？

特に2016年2月の『ジカウイルス感染症の国際的拡大』は
蚊媒介感染の為、日本から再流行を想定をする
↓
理由：犯人は日本各地の雨水桝に多数生息するヒトスジシマカ

日本の4-11月は蚊の活動時期です。
リオ・オリンピック前の『ジカウイルス感染症の恐怖を思い出し』
蚊の産卵場所、繁殖場所を事前に無くし、幼虫を減らす。成虫を積極的に駆除して減らす。これらを同時に行い個体数を減らし刺される確率を下げる予防対策が起るかもしれない！意識の予防対策

子育て世代の最大の脅威【ジカウイルス感染症！】

症状と症候

ジカウイルス感染症の潜伏期間（接触から発症までの時間）は3-14日間と推定されています。（水際対策で見付け難い）ジカウイルスの感染者の多くは症状を呈しません。症状は一般的に軽症であり、発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛や関節痛、倦怠感、頭痛などが含まれ、通常2-7日で治まります。（風邪と似た症状自覚し難い）

合併症

妊娠中のジカウイルス感染は、小頭症やその他の胎児期及び新生児期の先天異常を引き起こします。妊娠中のジカウイルス感染はまた、胎児死亡、死産及び早産などの合併症をもたらします。

ジカウイルス感染は、成人や高年の小児において、ギラン・バレー症候群、脊髄症及び脊髄炎の原因にもなります。

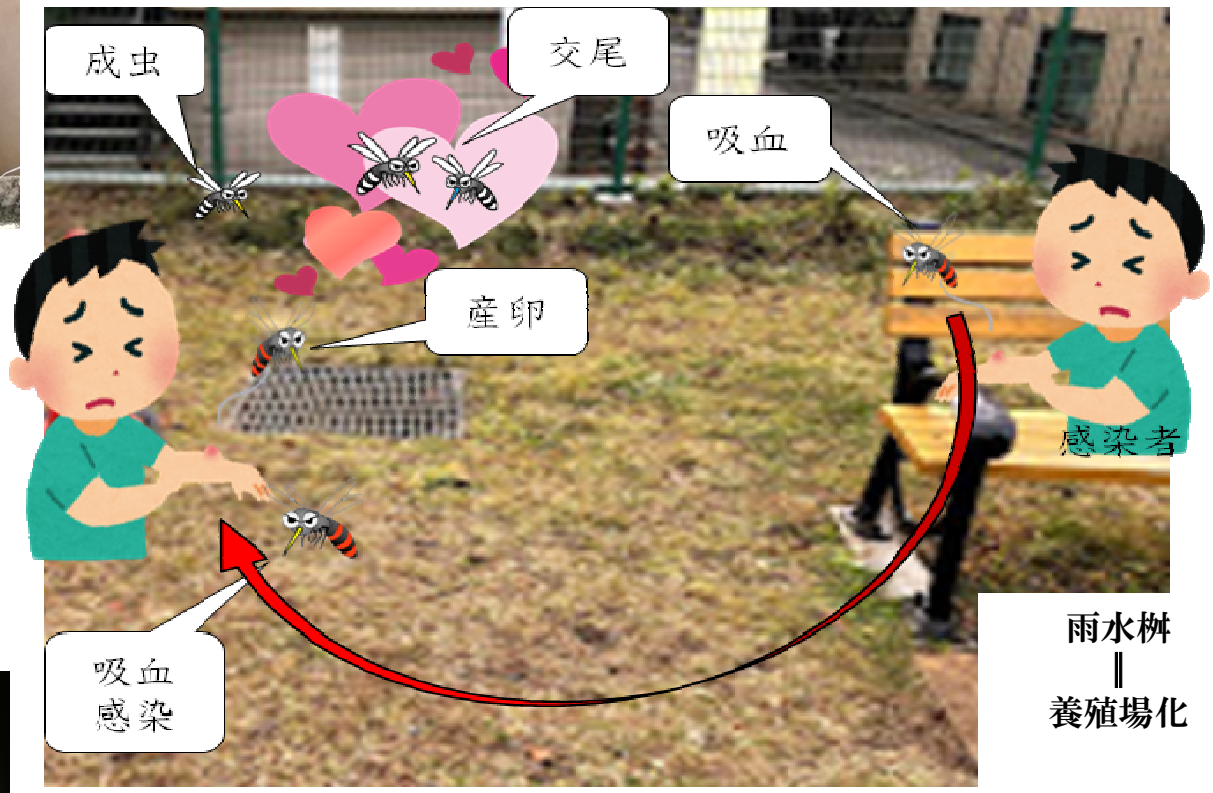
（出典元：厚生労働省）ジカウイルス感染症について
https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/201905301116.html

ジカウイルス感染症は蚊媒介感染から性交渉感染、更に生まれてくる子供への母子感染と感染方法を多角的に変え、特に子育て世代の脅威と成ります。
又、感染時に症状が軽い割に、小頭症、ギラン・バレー症候群等、次世代に障害者が増え続け、社会問題に発展する可能性があるためです。

23区内は感染拡散確率UP：雨水桝は、安全な養殖場状態

23区内の人の集まる所にある雨水桝は、血液と産卵場所が近く、安全な養殖場状態で増殖の仕組みが出来上がっています。

政府の方針で訪日外国人が増える方向に変わりはない外来ウイルスが入り込む可能性が高まる。



雨水桝
‖
養殖場化

現在は新型コロナウイルス以外眼中に無い、又、外出行動を自粛していた分、外に出て開放的に過す事が考えられ、蚊に刺される可能性が高い。

重点サーベイランスの雨水桝内100ml内蚊幼虫数の推移（H27-R1）

	蚊幼虫数	27年4,5月 全数	27年1/30 4,5月調整数	27年6月以降 100ml中	27年調整合計	28年	前年比	29年	前年比	30年	前年比	1年	前年比
1	代々木公園 渋谷区	649	22	220	242	215	89%	201	93%	389	194%	433	111%
2	日比谷公園 千代田区	3,193	106	557	663	919	139%	238	26%	525	221%	432	82%
3	浜離宮恩賜庭園 中央区	14	0	77	77	286	371%	70	24%	51	73%	157	308%
4	戸山公園 新宿区	9	0	22	22	81	368%	45	56%	196	436%	291	148%
5	上野恩賜公園 台東区	4,251	142	211	353	332	94%	312	94%	316	101%	403	128%
6	駒沢オリンピック公園 世田谷区	4,204	140	86	226	317	140%	371	117%	1,148	309%	1391	121%
7	光が丘公園 練馬区	1,817	61	134	195	1,116	572%	77	7%	1,125	1461%	903	80%
8	猿江恩賜公園 江東区	1,745	58	434	492	85	17%	175	206%	252	144%	357	142%
9	葛西臨海公園 江戸川区	1,424	47	55	102	68	67%	140	206%	290	207%	271	93%
	計	17,306	576	1796	2372	3419	144%	1629	48%	4292	263%	4638	108%

◆幼虫検査後に雨水桝内に薬剤を投入しているが、粗前年度を上回る幼虫が発生している、薬剤を投入しても蚊の繁殖を抑える事が出来ない事を証明している。

◆特に代々木公園は2014年デング熱の発生源として封鎖して薬剤を散布したにも関わらず2015年にも相当数が繁殖し、以後薬剤処理を続けても増え続けている。

◆雨水桝への薬剤処理は**効果が無い**事が確認された。雨水桝は構造的に薬剤は不向き。

東京都健康安全研究センター　広域サーベイランスの成虫年度別15年集計

H16年～H21年サーベイランス成虫数の推移　　平成22年～令和元年　↓注

広域サーベイランス		サーベイランス地点年度により違う								サーベイランス地点同じ														3.1倍	
	蚊の種類	16年	17年	18年	19年	20年	21年	計	割合	22年	23年	24年	25年	26年	計	割合	27年	28年	29年	30年	1年	計	割合	合計	割合
多摩部	アカイエカ	66	63	42	194	106	171	642	15.2%	75	96	147	320	121	759	15.5%	134	68	87	85	99	473	15.1%	1,874	15.3%
	ヒトスジシマカ	18	565	738	737	334	884	3,276	77.5%	718	869	356	912	467	3,322	67.9%	338	345	238	375	246	1,542	49.1%	8,140	66.4%
	コガタアカイエカ	区分無し				9	2	11	0.3%	0	8	2	12	14	36	0.7%	7	7	9	4	3	30	1.0%	77	0.6%
	ハマダラカ	区分無し					2	2	0.047%	2	1	0	1	0	4	0.082%	1	5	2	1	2	11	0.4%	17	0.139%
	その他の蚊	7	13	65	131	41	40	297	7.0%	149	132	242	137	108	768	15.7%	266	234	201	243	138	1,082	34.5%	2,147	17.5%
	多摩部蚊合計	91	641	845	1,062	490	1,099	**4,228**		944	1,106	747	1,382	710	**4,889**		746	659	537	708	488	**3,138**		**12,255**	28.1%
	多摩部/合計	14.6%	39.0%	43.1%	37.7%	21.5%	28.6%	32.1%		21.9%	36.4%	29.0%	31.1%	29.5%	29.2%		30.8%	13.2%	16.9%	23.0%	16.3%	22.9%			
区部	アカイエカ	214	125	329	520	728	982	2,898	32.4%	283	403	444	406	225	1,761	14.8%	214	429	296	191	340	1,470	10.9%	6,129	17.8%
	ヒトスジシマカ	314	879	752	1,099	864	1,653	5,561	62.2%	3,011	1,411	1,087	2,576	1,356	9,441	79.5%	**1,309**	2,878	1,931	2,126	1,990	10,234	75.6%	25,236	73.5%
	コガタアカイエカ	区分無し				32	5	37	0.4%	8	50	13	30	28	129	1.1%	35	32	15	31	18	131	1.0%	297	0.9%
	ハマダラカ	区分無し					1	1	0.011%		0	0	0	0	0	0.000%	0	0	0	0	0	0	0.000%	1	0.003%
	その他の蚊	3	0	34	136	164	101	438	4.9%	57	71	289	49	84	550	4.6%	115	992	405	25	162	1,699	12.6%	2,687	7.8%
	区部蚊合計	531	1,004	1,115	1,755	1,788	2,742	**8,935**		3,359	1,935	1,833	3,061	1,693	**11,881**		1,673	4,331	2,647	2,373	2,510	**13,534**		**34,350**	78.8%
	区部/合計	85.4%	61.0%	56.9%	62.3%	78.5%	71.4%	**67.9%**		78.1%	63.6%	71.0%	68.9%	70.5%	**70.8%**		69.2%	86.8%	83.1%	77.0%	83.7%	**99.0%**		2.8倍	
	合計成虫数	622	1,645	1,960	2,817	2,278	3,841	**13,163**		4,303	3,041	2,580	4,443	2,403	**16,770**		2,419	4,990	3,184	3,081	2,998	**13,674**		**43,607**	

A)　23区内の成虫の25,236/34,350×100＝73.46％　ヒトスジシマカ。

B)　23区内の雨水桝周辺の蚊の成虫は多摩区の約2.8倍も生息。ヒトスジシマカのみ=3.1倍

C)　23区の人口は都民の68%に当たる約930万人で、更に観光、業務で人数が増える事から蚊に刺され、血液を与え増殖の手伝いをしている可能性が高い

東京都健康安全研究センター　重点サーベイランスの成虫年度別5年集計

↓注　平成27年～令和元年

重点サーベイランス						27年	28年	29年	30年	1年	計	令2	蚊種類割合
23区内9ヵ所	ヒトスジシマカ					2,785	3,562	1,720	3,851	2,198	14,116		52%
	その他の蚊					2,612	2,610	2,479	2,739	2,833	13,273		48%
	合計成虫数					5,397	6,172	4,199	6,590	5,031	27,389		
	幼虫合計【参考】					2,373	3,419	1,629	4,292	4,638	16,351		

2020年は
蚊の発生が多い年と予想。

2016年＝3,562匹実数
3,562匹×1.08＝3,846予想
2018年＝3,851匹実数
3,851匹×1.08＝4,154予想
2020年＝増殖予想

地球温暖化とともに住み易い環境に成った？

マラリアは世界では死と直結する蚊媒介感染症と恐れられています。
しかし、日本には媒介するハマダラカが少ない事が理由で、専門家は感染確率が低いと問題視していません。東京都の蚊サーベイランスデータを見ても毎年小山田緑地に、生息している事は確認されていますが、割合は極めて少ないです。

しかし令和元年に今まで確認されていなかった八王子霊園でハマダラカが確認されました。しかも問題視した公告が無かったことに驚いています。
何故と言う目線で？調査する危機管理意識が必要でしょう。

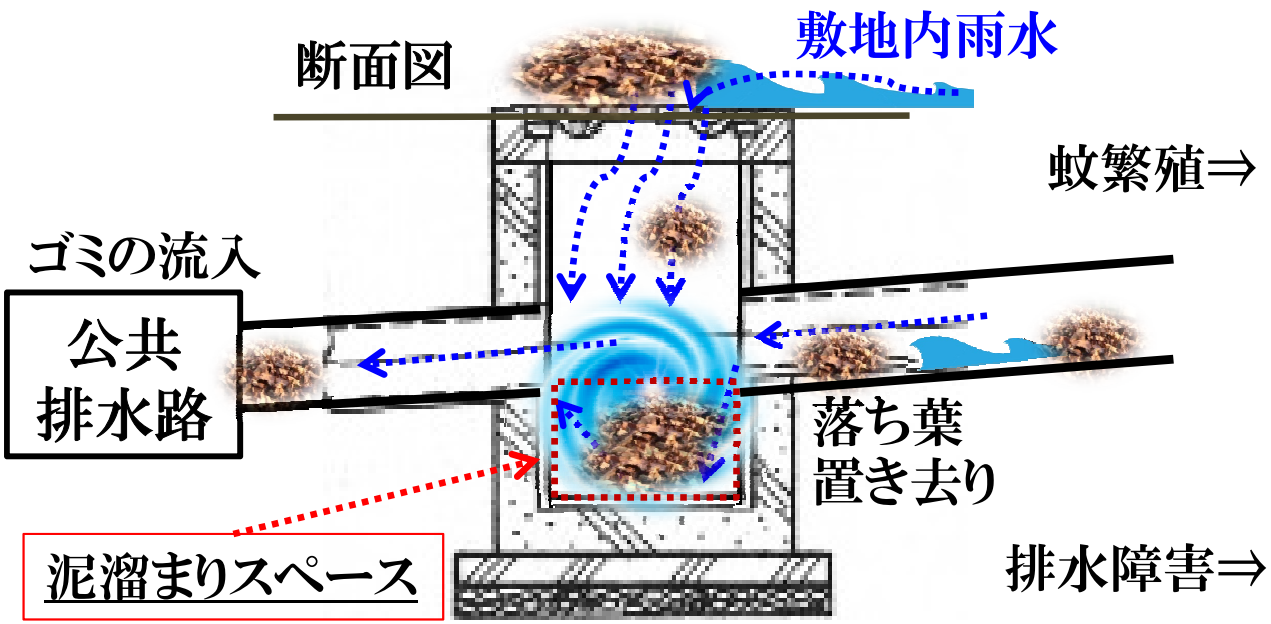
特に問題は霊園は無防備な状態で行くので刺され易く、又場所柄、蚊であってもその場で殺生し難い事と、国際結婚も増え訪日外国人が立ち寄る可能性が高い事からマラリアを拡散する確率は小山田緑地に比べ高いと言えます。

蚊媒介感染症拡散の無い、蚊のいない街づくり　雨水桝とは

都市部のヒトスジシマカの産卵場所として、最も有名な雨水桝は、どんな建築物や不動産にもあります。理由は人が集まる所に不要な水溜りを作らず、雨水を早く流し、足元を汚さず、衛生を保ち、生物の産卵場所に成らない様に集排水する事が役割があるからです。

しかし雨水桝には横引き配管へゴミの堆積を防ぐ為、泥溜まりスペースを作った事で、雨水と落ち葉が溜まり、ボウフラの成長し易い餌と安定した水分がある養殖場を提供してしまいました。

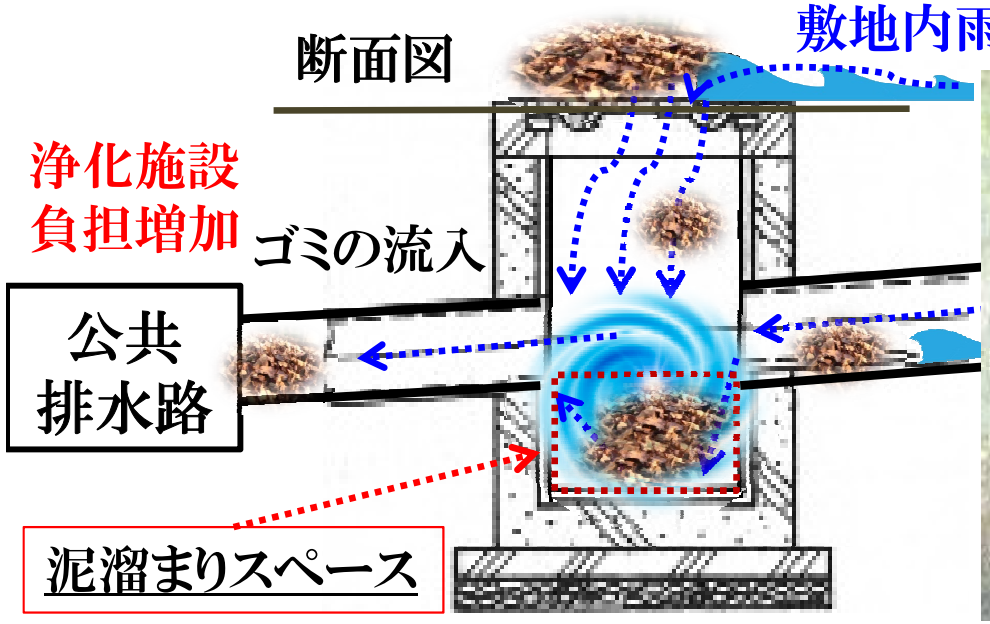
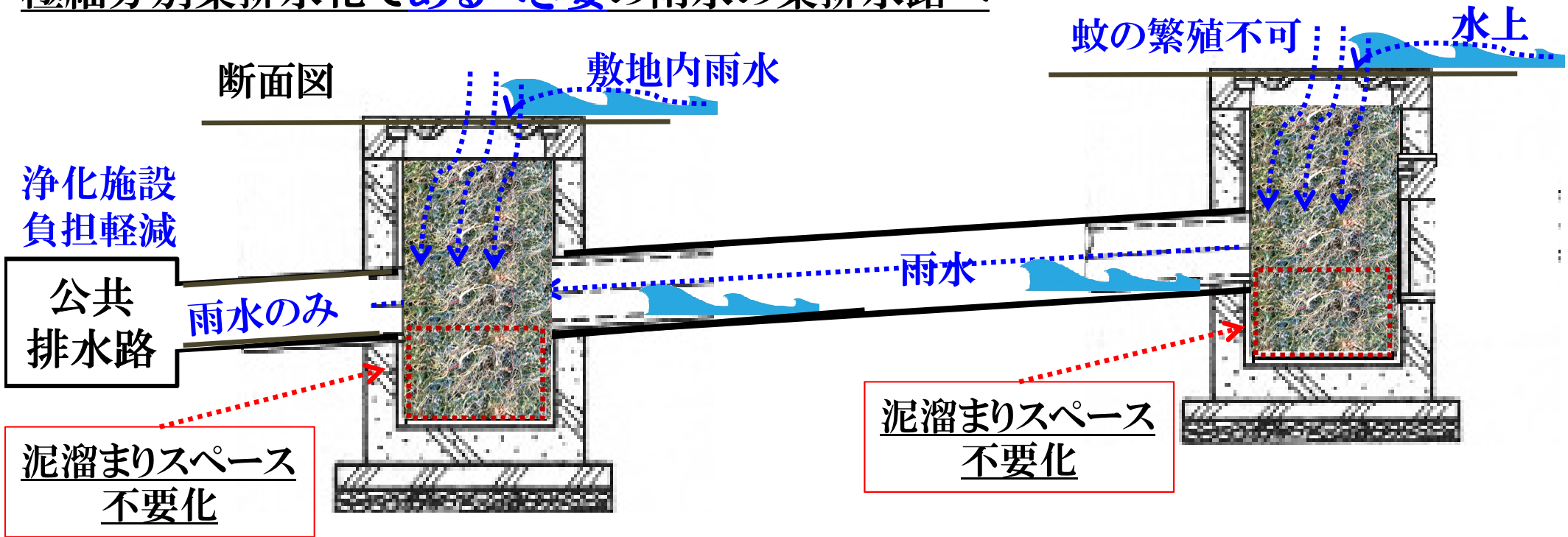
しかも僅かな泥溜まりスペースの為、薬剤を投入しても降雨ごとに流れ出てしまう構造的課題があり、産卵の制御には計画的な薬剤投入が不可欠です。



蚊繁殖⇒

排水障害⇒

比較：現状の雨水の集排水と極細分別集排水化



極細分別集排水化であるべき姿の雨水の集排水路へ